



公益財団法人 日本自転車競技連盟  
JAPAN CYCLING FEDERATION

# Cyclism ech

シクリズムエコー  
No.230

## 2019 新春号 >(REBORN)<

【知事に聞く】 上田清司  
埼玉県知事

【ジャカルタ・アジア大会】

日本が掴んだ14個のメダル

【アーバンサイクリング世界選手権】

新五輪種目・BMXフリースタイル日本代表の戦い

【トラックW杯 第1戦】

ケイリン脇本雄太が2勝目

【おおいたアーバンクラシック】

U23浅田ジャパンが完全勝利

【ヒーローたちの肖像】

## 別府史之





埼玉県は平野部が多く、サイクリングロードの長さも日本一イベントも充実して楽しめる環境が揃っています

# 知事に 聞く1

## 埼玉県知事 上田清司

今号から新たにはじまった「知事に聞く」。日本全国47都道府県を自転車で楽しむため、行政の長である知事に、自転車にまつわるプライベートな話も盛り込みながら、その土地の魅力に迫っていく。第1回は埼玉県の上田清司知事に聞いた。

文◎猪俣健一 写真◎田中苑子

### 3つの日本一が結びつける 埼玉県と自転車の深い関係

我が埼玉県は非常に自転車に適した環境が揃っているといえるでしょう。それを裏付けるのが3つの日本一のデータです。ひとつ目は平成20年のデータで県民一人当たりの自転車の保有台数が0.76台と日本一になっていること。2つ目は勾配が緩やかな平地面積が全国1位であること。3つ目に河川沿い（利根

川および江戸川）に整備されているサイクリングロードが、長さ日本一を誇っていることです。

これらのデータから坂が少なく平地の多い土地柄によって、通勤や通学などの手段として自転車が支持されているのがわかります。また自転車を楽しむという側面からみると、サイクリングロードが整備されていることは魅力的ですね。日本一なのもう一つあって、快晴日数が平成21年から全国1位を8年

連続で継続しているんです。このあたりも自転車を利用しやすくしていますね。

これは偶然なんです、江戸時代にいまの本庄市の庄田門弥という人が陸船車という自転車のルーツともとらえられる乗り物を作っています。いまでも設計図が残っており復刻した物が実際に動きます。そして現代になるとブリヂストンサイクルやホダカなどの自転車メーカーも埼玉県内にあります。歴史的にも埼玉県と自転車は深い縁で結

ばれていると感じられますね。

### 夢は自転車で日本一周！ 向かい風を体感した 正月の思い出

自転車は好きですね。じつは早い時期から自転車で日本一周したいと思っていますんですよ。いまだに実現していませんが、所沢に住む古くからの友人が2歳と還暦で2回も日本一周してまして、それを見ているといいなあと思っています。自分で乗ることはなかなかないですが、一度面白いことをやりましたよ。リーマンショックがあった翌年の正月2日に、いわゆるママチャリで女房と2人で県庁のあたりから葛西臨海公園まで往復しました。約90kmの道のりだから平均時速15kmとして6時間で戻ってこられる計算ですね。お昼くらいに出発して、行きは平均時速20kmくらいで行ってしまったんです。ずいぶん速いペースで、私もまだまだパワフルだと思ったんですね。ところが帰り道になるとすごい向かい風が吹いていて時速10kmになってしまった。結局最初の計算どおり平均時速15kmだったんです。

そこでわかったんです。人間というのは、追い風を受けているときは感謝しないで自分の力だと思い込んで、向かい風だけやかましく言っていると。まさにリーマンショックのときも追い風には感謝せずにうまくいっていただけ、真価が問われるのは向かい風が吹いたときだ！ こういう新年の挨拶ができました。人生も一緒ですね。

### 秩父の山間部や さいたまクリテリウムなど、 乗って観て楽しめる

スポーツとしての自転車が盛んなの

も埼玉県の特徴ですね。古くから秩父宮杯を冠したロードレースが行われています。かつては県を縦断するルートでしたが、平成20年からは山間のルートが設定できる秩父市に限定しています。本格的にロードバイクが楽しめるアップダウンのある環境は、自転車競技を楽しむみなさんからも高い評価をいただいています。大宮と西武園と県内に競輪場が2つあり、秩父市にはBMXコースがあるなど、施設的にも充実していますね。

また郊外部の河川沿いや山間の道は環境が良いので、都内などから愛好者に来ていただいている。生活用具としての自転車だけでなく、スポーツサイクルにとって安全な道路を整備していく、より埼玉県に来ていただける環境を整えていきたいと考えています。

また、さいたま市の清水市長のリーダーシップにより日本で唯一、世界3大ロードレースであるツール・ド・フランスを冠したツール・ド・フランスさいたまクリテリウムが行われています。県としても自転車をもっと広めるために、サイクルエキスポというイベントをさいたまスーパーアリーナで大々的に行っていて、親子連れや本格的な競技者まで多くの方に来場いただいています。

いっぽうで埼玉県にとって自転車が多いのは大変良いことなのですが、自転車の交通事故が多いのも現状です。自転車も車両であることを徹底していきたいですね。歩行者も自動車も丁寧に信号を守るのに、自転車だけが自由勝手なところがある。小回りも利いて運転しやすいんでしょうけれども、自転車事故も増えていて命に関わること



もあります。自転車に乗る方には、意識を高めていただきたい部分があります。

自転車をはじめとした  
通勤時の運動が  
県民の健康増進に貢献

健康長寿と自転車との相関関係について、正確に量ったようなデータは残念ながら見たことがありません。ただ埼玉県は6番目に県民の平均年齢が若い県です。医療費も6番目に少なくてもいいはずなんです。一人当たりの医療費が日本一少ないんです。正直この原因はよくわからないんです。健康寿命も男性全国2位、女性が29位とずいぶん差があるんです。

この違いについてあくまでも憶測ですが、通勤通学者が神奈川に次いで2番目に多いことがあるんじゃないかと考えています。神奈川は横浜と川崎に人口が集中していて郊外部が薄く駅に近く恵まれた環境の人が多く、埼玉県の方が若干ですが広い面積に人口が広

がっている。さらに平坦であることで、自転車や徒歩を手段としやすいために、駅へと急ぐことで必然的に運動量が増えるんですね。それで知らず知らずのうちに健康になっているんでしょうね。

風と空気を感じられる  
日本一のサイクリングロード！  
輪行の併用なら観光も楽しめる

埼玉県を自転車で楽しむ秘訣は2つです。まずは川沿いのサイクリングロードを楽しむ。車との遭遇を気にせずに風景を堪能し、風と空気を感じるコースが日本一です。もう一つは比較的都会に近く、比企丘陵郡の頂上まで800mほどの丘陵と小高い山が八高線沿いにあります。輪行を併用すれば魅力的な場所を集中して堪能できます。

私のオススメは新幹線で大宮まで来て、川越あたりまで電車で移動して、徒歩で蔵造りの町並みを眺めて観光も楽しんでいただくことです。そこから自転車を組み立てて比企丘陵郡に入っていくルートは充実したサイクリングが

できますね。また所沢から入間、飯能を通して秩父へ。ほかにはトトロの森を感じるなど、さまざまな楽しみかたがあります。

首都圏のみなさんはもちろんですが、日本全国から埼玉県の魅力を体感しに来ていただきたいですね！



◎ PROFILE  
1948年生まれ福岡県出身。高校時代はバレーボール部の主将を務めたこともあるスポーツマン。大学院時代に所沢で学習塾を開業。1993年から衆議院議員、2003年より埼玉県知事として数々の改革を進めたほか、日本一の生涯スポーツ県づくりにも邁進している。

埼玉県と自転車

● ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム

2013年からさいたま市で開催されているツール・ド・フランスの名を冠した世界初のクリテリウム大会。ツール・ド・フランスの総合優勝者をはじめとした世界レベルのトップレーサーに加え、日本人選手も参加し、白熱のレースが繰り広げられ、毎年多くの観客で盛り上がる。さいたま市主催で、埼玉県も共催している。



● 世界最古の自転車ともいわれる「陸船車」

江戸時代中期の享保14年(1729年)に庄田門弥により本庄市で作られたという陸船車。足踏み式の四輪車で、時速14kmで走り、坂も上れたという記録が残っており、世界最古の自転車機能をもつ乗り物とされている。



● 自転車保有台数が全国トップレベル

平成20年の県民1人あたりの自転車保有台数が0.76台と日本一になった埼玉県(自転車協会調べ)。平成30年のデータでは、1世帯当たり保有台数が1.503台と埼玉県は全国3位とトップクラスを維持し、保有台数についても450万7000台と全国3位だ(自転車産業振興協会調べ)。

ナショナルチームの活躍を支える  
エアロヘルメット



日本ナショナルチームが採用するカブトのヘルメット。エアロ・R1はロードやトラックで主に使用されるヘルメットだ。オートバイレース用ヘルメットデバイスとして開発された空力機能「ウェイクスタビライザー(特許NO.4311691)」を後部に設けたことで乱流を整え、ロングテールのヘルメットと同様の空力性能を誇る。同時に求められるのが、溜まった熱気を輩出するクーリング性能だ。こちらにおいてもエアロダイナミクスを妨げることないエアルーフトを確保。ヘルメット内部に風を通過させることでライダーの疲労を軽減する快適性を実現した。さらに取り外し可能なシールドを標準装備し、メガネとの同時使用も可能となっている。このヘルメットを使用した橋本英也と梶原悠未が8月に開催されたアジア大会のトラック・オムニアムで金メダルを獲得。また10月に開催されたロードレース、おおいたアーバンクラシックでも使用され、若手中心のナショナルチームが躍進し石上優大が優勝を果たしている。エアロ・R1は、日本ナショナルチームの活躍を支える影の立役者といえる。

AERO-R1 (エアロ・R1) 21,000円(税抜)

- サイズ: XS/S, S/M, L/XL ● カラー: 全8色
- 参考重量(シールド未装着): 195g(XS/S), 205g(S/M), 235g(L/XL)
- 公益財団法人日本自転車競技連盟公認

■ お問い合わせ: オージーケーカブト  
www.ogkkabuto.co.jp TEL.06-6747-8031

Kabuto  
the phenomenon

www.ogkkabuto.co.jp



## ヒーローたちの肖像①

日本自転車ロードレース界の第一人者

# 別府史之 軌跡と未来

幼い頃から自転車が好きだった。そして負けを知らなかった。3兄弟の末っ子は、自転車競技に打ち込む兄たちに刺激され、高校卒業後に単身フランスへと渡りプロを目指した。2005年、22歳でディスカバリーチャンネルとプロ契約。本場ヨーロッパで生え抜きのプロとして認められた。2009年にはツール・ド・フランスを日本人として初完走、オリンピックや世界選手権では日本を背負い走ってきた。日本のロードレース界においてトップであり続ける別府は、まもなくプロ15年目のシーズンを迎えようとしている。日本を代表するロードレーサー"Fumy"の軌跡と、未来。

文◎小俣雄風太 写真◎田中苑子、岩崎竜太



アジア大会ロードレースでは銀メダル、翌日の個人TTでは銅メダルを獲得した

## 負け知らずの少年時代 しかし挫折が、プロへの扉を開いた

2004年、日本のロードレースファンは嬉しいニュースに胸を躍らせた。弱冠21歳の別府史之が、当時ツール・ド・フランス連覇中のUCIプロチーム、ディスカバリーチャンネルとプロ契約を結んだという知らせだ。それはつまり、1996年きりとなっていた日本人の再びのツール・ド・フランス出場の可能性であり、前人未踏の完走への期待までも含む朗報だった。そして蓋を開けてみれば、2006年にはロード・個人TTで全日本選手権二冠達成、2008年にはアジア選手権で優勝、2009年にツール・ド・フランス初出場を果たせば最終日のパリ・シャンゼリゼで果敢な逃げを見せ敢闘賞を獲得し、完走と、日本の第一線はもとより世界のトップレベルで活躍を続ける選手へと成長を遂げた。35歳となった現在も、ロードレースの最高峰UCIワールドツアーチームに所属。

これほどのプロのキャリアを誇る日本人は、別府の他にいない。

小学生の頃から負け無しだった。家族旅行も兼ねていた全国各地でのMTBレースでは、25連勝したらしい。らしい、というものは本人も正確な数を覚えていないからだ。野球にバスケットに水泳、陸上とスポーツ大好き少年だったが、それは「人と競うのが好き」だから。生粋の勝負師は、陸上競技でも市内大会で優勝するほどだったが、「全ては自転車のためでした。こんなに夢中になれるスポーツは他にない」くらいに自転車が心の中を占めていた。兄がすでに自転車選手だったことから、若くして本場ヨーロッパを志向した。しかし、ジュニアカテゴリーでチャンピオンになり、日本で土台を固めてから西欧に挑戦しようと高校進学を選択。1、2年生次に高校選抜を2連覇。すでに

国内に敵はいなかった。日本代表としてナショナルチームのジャージを初めて着たのもこの頃だ。17歳の夏、カナダで行われたジュニアのワールドカップレースで海外のスピードを実感。日本とは違う速度のレースに、生来の負けず嫌いが刺激された。高校3年生でアジアチャンピオンに輝き、単身フランスへ渡り現地のアマチュアチームで活動。そこでの活躍が目にとまり、2005年のプロデビューへとつながっていく。まったく順風満帆なストーリーである。しかし本人は、「あそこで挫折しなければ、プロにはなれなかった」と振り返る。あそことは、U23の2年目、20歳の時の大落車のこと。顔を30針縫う大ケガに、自転車を止めようと本気で考えた。故郷から遠く離れたフランスの孤独の中で、プロ選手になるという夢は消えかけた。

しかし別府は負けず嫌いだ。自分自身という最大の難敵に打ち勝ち、再び自転車にまたがった。「顔をケガするまでは、そこそこ走れていましたが、プロになるレベルからはほど遠かったと思います。2位や3位、入賞は多かったけど勝てなかったんです」プロになるには勝利が必要、それは別府本人も痛感していた。それが大落車を経て、「俺はプロになるためにフランスまで来たんだ」と発奮。それまでにないハンタースタのステージ優勝をもぎとった。

ロードのプロ選手の平均的なキャリアが6年そこそこだといわれるなかで、別府が迎えるのはプロ15年目のシーズンだ。その長いキャリアの全期間にわたり、ナショナルチームの一員に選抜され、世界選手権や

オリンピックといった国際大会を走り続けてきた。日本代表として走った数多くのレースの中でも、2008年のアジア選手権と2018年のアジア大会が思い出に残っているという。奈良県で開催されたアジア選手権では優勝、そして今年ジャカルタで開催されたアジア大会は、2位。5名に絞られた先頭グループのスプリント勝負で先行したものの、フィニッシュラインまで5mのところまでカザフスタンのルツェンコに逆転を許した。悔しさをにじませる。「絶好のタイミングでスプリントを開始。万全でしたがフォトフィニッシュになり、最後は力負けでした。4年に一度のアジア大会で日本に優勝を持ち帰れたかったんですが」とはいえ、ルツェンコは自転車強国カザフスタンの現チャンピオン。別府だからこそ彼と伍して

戦えたともいえる。渾身のガッツポーズはそれだけ僅差だったことを表している。

プロとして長きに渡るキャリアの秘訣を訊くと、「1年1年の積み重ねです」と慎ましくも実直な答えが返ってきた。「ケガや病気もなく続けてこれたのは、練習とケアをしっかりと積み上げてきたから」と語る別府の目線の先には、2020年の東京がある。5年前に東京五輪が発表された際は、ずいぶん先のことに感じたというが、今も別府は日本のトップ選手だ。「生まれ育った土地でのレース、夢の舞台に気持ちが高まります。ここまでやってきたことを積み重ねて、トップであり続けたい。キャリアの集大成として、すべてを出し切る覚悟です」

日本を背負い駆け続ける第一人者の覚悟は重く、そして確信に満ちている。



## 積み重ねてきた 経験と自信 キャリアの集大成 2020への覚悟

### ● PROFILE

1983年4月10日生まれ。高校生時に国内タイトルを総なめにし、渡仏。2005年プロ入り。14年間のキャリアにおいて、日本人初のツール・ド・フランス完走や2度のオリンピック出場など、常に日本を代表する選手として活躍している



アジア大会を支えた若いボランティアたちと笑顔で記念撮影



僅差のスプリント勝負となったアジア大会男子ロードレース

2018 ジャカルタ・パレンバン アジア大会総括

# 日本が掴んだ 14個のメダル

8月にインドネシアで開催された4年に一度のアジア大会。アジア大会は、アジア版オリンピックともいわれ、自国開催の東京オリンピックでの活躍をめざす日本にとって、非常に重要な意味をもつ。自転車競技では、トラック、ロード、BMXで合計14個のメダル獲得した。

文・写真◎田中苑子



アジア王者としてオムニアムでリードする梶原悠未。昨季はワールドカップオムニアムで2勝し、世界からもマークされる存在になった



東京オリンピックに向けて強化が進む男子ケイリンは新田祐大が僅差の銀メダル



得意の登坂区間でリードする與那嶺恵理。ロードレース3位、TT2位



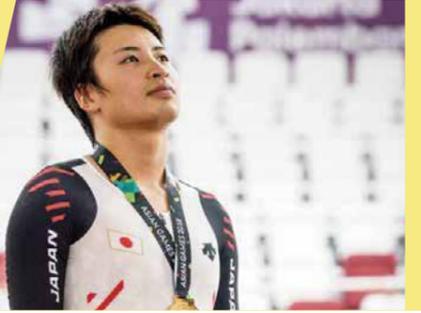
スタート直後より先行したBMX長迫吉拓。スタート直後からリードし続けて金メダルを獲得



男子チームスプリントでは雨谷一樹、新田祐大、深谷知広が銅メダル



男女ともに銅メダルを獲得し笑顔みせるチームバシュートの代表選手たち



アジア大会の男子オムニアムで2連覇を達成した橋本英也

4年に一度、開催されるアジア競技大会(以下アジア大会)が、2018年夏、インドネシアにて開催された。アジア大会は、アジア最大のスポーツイベントで、今回も首都ジャカルタでの盛大な開会式を皮切りに、41競技465種目で熱戦が繰り広げられ、自転車競技も約2週間にわたり、24名の日本代表がナショナルフラッグを胸に戦った。

バイナブル畑を駆け抜けるMTBクロスカントリーでは沢田時が6位。ロードレースでは、途切れることのない観客たちの熱狂が選手たちを出迎え、数的不利をはねのけて、中根英登がすばらしいチームワークで別府史之を2位に送り込むと、女子でも與那嶺恵理が個人TTで力走。しかし金メダルにはわずかに0.16秒差及ばず、2位となった。

なんととしても欲しい金メダル。期待が高まるなかでスタートしたBMXでは、女子の畠山紗英が決勝で転倒するアクシデントに見舞われ8位。彼女の悔しさは、ともに決勝に進んだ長迫吉拓と吉村樹希敢の背中を押す。そして下馬評どおりに長迫がスタート後から危なげなく先行し優勝。大会8日目に自転車競技初の金メダル獲得となった。

「危ない面もあったが、自信はあったので積極的に走った。勝たないといけないプレッシャーのなか勝つことができた。これ

は東京オリンピックへ向けて良いステップになったと思う」。首にかける金メダルの重みに嬉しさを感じながら、勝負のバトンを最終種目となるトラックの日本代表に託した長迫。注目が高まる逸材だ。

そして、5日間の日程で新設されたヴェロドロームにて開催されたトラック種目。2018年より本格始動したブノワ・ベトゥ、イアン・メルヴィン、両ヘッドコーチのもと、日本は総勢25名を超える大きな代表チームを編成した。短距離チームは、深谷知広のスプリントで銀、ケイリンでも新田祐大が銀メダルを獲得。チームスプリントは、深谷と新田が予選でベストタイムを更新して銅メダルを獲得。また、秋からのシーズンに向けて肉体改造に取り組む中距離チームは、万全な調子ではなく苦戦を強いられたが、男女チームバシュートで銅メダル、複合種目のオムニアムでは橋本英也と梶原悠未がともに金メダルを獲得した。

梶原は「アジア選手権で2連覇しているの、今回は金メダルだけを狙った。たくさんの方々に感謝の気持ちを伝えたい」とホッとした笑顔みせる。

一方の橋本は「仁川大会では運が良くして勝ったが、今大会では実力で勝つことができた。強さを証明できたと思うし、手応え

がある。次はワールドカップや世界選手権での優勝をめざしたい」と抱負を語る。

自転車競技は今回のアジア大会で14のメダルを獲得。多くの種目でメダル獲得できたことは、国内外への大きなアピールとなったが、世界を見据えるうえでアジアは通過点。東京オリンピック、そしてその先に向けて、さらなる戦いが続いていく。

## 少数精鋭で アジアをリード

### アジア大会メダリスト一覧

- 金メダル
  - ・BMX 男子/長迫吉拓
  - ・トラック 男子オムニアム/橋本英也
  - ・トラック 女子オムニアム/梶原悠未
- 銀メダル
  - ・ロードレース 男子個人ロード/別府史之
  - ・ロードレース 女子個人TT/與那嶺恵理
  - ・トラック 男子スプリント/深谷知広
  - ・トラック 男子ケイリン/新田祐大
  - ・トラック 男子個人追抜/近谷涼
- 銅メダル
  - ・ロードレース 男子個人TT/別府史之
  - ・ロードレース 女子個人ロード/與那嶺恵理
  - ・トラック 男子チームスプリント/雨谷一樹・新田祐大・深谷知広
  - ・トラック 男子団体追抜/一丸尚伍・今村駿介・近谷涼・橋本英也・沢田桂太郎
  - ・トラック 男子マディソン/橋本英也・今村駿介
  - ・トラック 女子団体追抜/橋本優弥・吉川美穂・中村妃智・梶原悠未・鈴木奈央



## 2018 UCI URBAN CYCLING WORLD CHAMPIONSHIPS

2018 UCI アーバンサイクリング世界選手権

足を傷めながらも決勝に臨んだ大池水杜。代名詞ともいえるノーハンダーで観客を魅了した

メダルを目指した BMX フリースタイル日本代表の戦い

# 大池水杜が予選 1 位通過も 決勝直前のアクシデントで 10 位

昨年大会でメダルまであと一步の 4 位で涙を飲んだ大池水杜。今季はワールドカップで初優勝を果たし、世界チャンピオンを目指して臨んだ世界選手権。決勝前の失意から見えたのは次への希望だ！

文・写真◎猪俣健一

昨年よりスタートした UCI アーバンサイクリング世界選手権。BMX フリースタイルパークとトライアル、MTB エリミネーターの都市型のサイクリングスポーツを一挙に行い、これまでの自転車競技とは異なり、ジャンルの垣根を越えた世界選手権として開催されている。舞台は昨年と同様の中国・成都市の都市部であり、多くのギャラリーを集めた。東京オリンピックから正式種目として採用された BMX フリースタイルパーク。なかでも注目は

女子の大池水杜と男子の中村輪夢だ。この大会で昨年、僅差でメダルを逃し 4 位に入った大池。2 年連続で全日本タイトルも獲得し、日本の BMX フリースタイル女子選手の第一人者といえる存在だ。今季はフロントで開催されたワールドカップ第 2 戦で念願の初優勝を果たすなど、ワールドクラスのトップ選手として世界タイトルを目指し、この大会に臨んだ。予選では最大のライバルともいえるアメリカ勢らが失敗するなかで、安定し

て持ち技を繰り出すスムーズなルーティーンにより、78.9 ポイントでトップ通過を果たした。準決勝も 2 本目を失敗するものの 8 位で通過した。しかし、ここでトップに立ったアメリカのペリス・ベネガスが獲得したポイントは予選の大池を大きく上回る 87 ポイント。昨年の 4 位を上回りメダルを獲得するために大池に求められたのが、高得点を獲得できる難易度の高い技を繰り出すことだった。決勝直前にこれまでに練習を重ねてきたも

の試合では初挑戦の、ジャンプを飛びきったバックフリップとテールウィップを組み込むことを選択した大池。メダルはもちろんのこと、世界タイトルを獲得するために避けられない選択だったが、これが裏目に出てしまう。決勝前ブラクティスでのバックフリップで転倒し、足にダメージを負ってしまう。強行しての出場が可能と判断した決勝 1 本目をバックフリップで転倒。バックフリップを成功させた 2 本目は終盤まで大きなミスもなく走るものの、最後のテールウィップを失敗してしまい、62.4 ポイントの 10 位と不本意な結果となってしまった。ワールドカップ優勝後に腰の痛みで自転車に乗れなかったこともあったという大池。まさに満身創痍でのシー

ズン終盤だったが、トップ争いをする経験も課題も得た。前週に世界選手権と同じ成都で開催されたワールドカップ最終戦で自己最高の 6 位に入り、ランキング 5 位で臨んだ中村輪夢は、予選を 6 位で通過。さらなる自己最高位の更新に期待が集まったものの、準決勝 2 本目のラストでミスが出て 17 位と決勝進出を逃してしまった。全日本王者の西 昂世とユースオリンピック銅メダリストの大霜優馬、難易度の高い技を繰り出す高木聖雄らも予選通過を逃し、日本勢のメダル獲得は来年度に持ち越された。まだまだ UCI としてスタートしたばかりの BMX フリースタイルパーク、ジャッジの判定基準も徐々に洗練されているといい、来

年は作戦を立てた戦いができるはずだ。2019 年まで 3 年連続で成都での開催が決定している本大会。取り逃した頂点を目指して、日本チームは来年も世界選手権に挑戦する！

### 2018 UCI アーバンサイクリング世界選手権 結果

BMX フリースタイルパーク		
男子	中村輪夢 (京都・ウイングアーク 1st)	準決勝 17 位
	大霜優馬 (神奈川)	予選 27 位
	西 昂世 (三重・JFBF)	予選 29 位
	高木聖雄 (岐阜・JFBF)	予選 38 位
女子	大池水杜 (岡山・JFBF)	10 位
トライアル		
男子	土屋凌我 (長野 無所属) エリート 20	準決勝 19 位
	塩崎大夢 (山梨 無所属) エリート 26	準決勝 DNS
女子	横田華奈 (兵庫 ワンダーエナジー) エリート	準決勝 13 位
団体戦		
	土屋 凌我 / 塩崎大夢 / 横田 華奈	6 位
MTB クロスカンントリー・エリミネーター男子		
	澤木 紀雄 (東京 acu-power racing team)	予選 10 位
	中村 龍吉 (福島 学法石川高等学校)	予選 11 位



大池はテーブルトップを飛びきったバックフリップで決勝での高得点を狙ったが 10 位で大会を終えた



世界選手権に挑んだ BMX フリースタイルパーク日本チーム。左から中村、高木、西、大池、大霜



前週のワールドカップ最終戦で 6 位に入り、好調のまま世界選手権に臨んだ中村輪夢だったが、決勝進出はならなかった



### 昨年ジュニアでメダル獲得も 決勝進出を逃したトライアル

昨年は男子ジュニア 26 で出場した塩崎大夢が 2 位に入ったトライアル。エリートに昇格した塩崎が、規定の 5 人のところ 3 人で臨んだ団体戦で 6 位に入る原動力となるものの、練習で足を傷めて個人戦の出場を断念。土屋凌我と横田華奈も決勝進出を逃した。結果こそ振るわなかったものの、次への課題を見つけた世界選手権だった。

### 世界レベルとの差を感じつつ、リベンジを誓った MTB エリミネーター

昨年は決勝に進出した澤木紀雄と高校生の中村龍吉が出場したエリミネーター。コースが昨年よりもテクニカルに変更され、パワーと同時にスキル面も求められたことで、両名とも予選通過まで 3 秒以上届かない悔しい結果となった。この結果を受け止めてレベルアップを図り、来季のリベンジを誓った。





フランス・パリ郊外でのワールドカップ第1戦。男子ケイリンで勝利し、表彰台の頂点に立った脇本雄太

東京オリンピックに向けた重要なシーズンが開幕

## フランスでのワールドカップ開幕戦 男子ケイリンで脇本雄太が圧巻勝利

ワールドカップ第1戦では、男子ケイリンで脇本雄太が捲り優勝。昨季に続く2勝目を挙げ、自信をまとい世界をリードする存在に。本格的なシーズンを迎え世界を転戦する日本代表を追う。

文・写真 © More CADENCE (JCF 公認自転車競技 WEB サイト) <https://morecadence.jp>

10月中旬の第1戦を皮切りによいよ始まったオリンピックへの戦い、UCIトラックワールドカップ。ワールドカップは世界各国に分かれて全6戦で行われ、年に一度の世界選手権大会、そして大陸選手権大会に次ぐ、ハイレベルな戦いの舞台となっている。世界選手権、大陸選手権、そしてワールドカップが東京オリンピック出場枠獲得のための大会であり、今シーズンから2シーズンをかけて出場枠争いが行われる。

すでに始まっている今シーズン、第1戦では脇本雄太が男子ケイリンで優勝を果たした。脇本は昨シーズンのワールドカップ第4戦で自身初の優勝を飾ったが、その勝利をきっかけに大きく変貌を遂げた。今シーズンのワールドカップ開催前には、これまで一度も勝ったことがなかった日本の競輪のなかの重賞

レース「GI」でも初優勝、そして次のGIでも優勝して他の選手を圧倒するパフォーマンスを見せている。

実はワールドカップ第1戦、走った内容は「らしく」ない美しい勝利だった。6人の選手たちによる決勝戦、脇本は先頭で周回を重ねていった。残り3周を切るとすぐさま仕掛けてくる選手たち。脇本は1つ、また1つと隊列の後方へと下がり、ラスト1週の時点で3番手から仕掛ける形となった。ラスト1周を切ると一気に脇本が加速。前の2人を追い越し、単独トップで最終コーナーを抜けて、今シーズンのワールドカップ初戦を見事に優勝で飾った。レース後に本人が「こんなに綺麗な形で勝つことが自分にあるのか」と語っていたが、それほど完璧で美しい勝利だった。本来の脇本は逃げ切り先行型、それが見事な

捲くりをみせての優勝となった。

脇本は今や世界に名をとどろかせる存在。しかしここまでは長く険しい道のりだった。ロンドンオリンピックの前からトラック種目を走っていたが、念願叶って初出場のオリンピックとなったリオデジャネイロ大会は1回戦での敗退。「完全に気押されていた」と語った脇本は夢の舞台で活躍するどころか、世界との差を実感した。続く2017年の世界選手権でも振るわず。自信がないことから積極的に戦えない。そんな状態が続いた。しかしリオ大会後に就任したブノワ・ベトゥ短距離ヘッドコーチと出会ったことで次第に変わっていき、今では日本を代表する選手となっている。

「これから記事を作るのは大変ですね」去年ワールドカップで脇本が初優勝を遂げた後、インタビューの後にそう言われたことを今で

も覚えている。脇本の中に余裕を感じられた瞬間だった。これからは世界でも追われる立場になる脇本、それでも勝者のメンタリティがある限り勝ち続けていこう。

そして第3戦、ベルリンで行われた大会ではついに女子で待望のメダル獲得者が出た。女子ケイリンで日本史上初となる銅メダル獲得を果たしたのは小林優香。ポテンシャルはあるとされながらも去年は敗退を繰り返した小林が念願の表彰台へと上った。印象的だったのは、小林のメダル獲得を海外の選手たちが喜んでいて、やはり周りからも一目置かれる存在だったことは間違いなく、苦しみながらもブノワヘッドコーチと勝ち取った銅メダルは今後の小林の走りに大きな影響を与えるだろう。今後の活躍に期待したい。

明るい話が続き短距離とは異なり、中距離は世界で苦戦している。昨シーズンは新たに就任したイアン・メルヴィン中距離ヘッドコーチとともに日本記録の更新や、これまでに立ったことのない表彰台のトップを飾るなど勢いがあった。今シーズンはワールドカップ第1戦に参加しなかったものの、第2戦に

は参戦。しかしオリンピックの出場枠を掛けた“本気”の戦いのなかで期待どおりの結果を得ることができなかった。昨シーズン1段

階レベルアップした日本チームだが、さらなるレベルアップが求められている。その姿を見ることができるのはいつになるのか。



### 第3戦 女子ケイリン 小林優香が悲願の表彰台

女子短距離がついにワールドカップでメダルを獲得した。小林は1回戦を首位通過、準決勝3位で決勝へと進み、残り1周半では最後尾につけていたが、そこから勝負所を冷静に見極め、3着でフィニッシュラインを越えた。同種目では7-12位決定戦に出走した太田りゆが先着し7位。二人でオリンピック出場枠に関わるポイントを大量獲得した。

### 課題が山積みとなった 中距離チームパシュート

第2戦で今季初めて世界の舞台へと上がったチームパシュート日本代表。男子はアジア選手権で日本記録を塗り替えたメンバーで挑んだが、予選最下位で敗退。女子は予選12チーム中8位で1回戦に進むも、予選5位のカナダに大差をつけられ敗退。男女ともに東京オリンピック出場枠獲得に向けて、厳しいスタートを切った。



緊張感あふれるケイリンのスタートシーン。脚力だけでなく一瞬の判断も勝負に大きく影響する



レース準備をする脇本雄太。今季は精神的にも余裕が感じられる



脇本雄太がフィニッシュラインに先着。2選手を捲る素晴らしい勝ち方だった

DESCENTE

Design for Sports

株式会社デサント

<http://www.descente.co.jp/>



## OITA Urban Classic おおいたアーバンクラシック

勝利した石上のもとにフィニッシュ後のチームメイトが祝福に訪れる

### 世界での経験をバネに U23 ロード浅田日本の快進撃 石上と松田が完全勝利

今年から UCI 認可の国際レースとなった大分県でのワンディレースで、終始積極的な走りをみせた若き日本代表が国内外のプロを相手に完全勝利した。世界のレースで厳しさを味わいながらも、懸命にトッププロをめざす彼らを追う。

文◎宮本あさか 写真◎田中苑子

「これまでの欧州経験のなかで培ってきたものを、いかに発揮した結果です」

おおいたアーバンクラシックでの勝利を、石上優大はこう自負する。ジュニア時代から日本代表メンバーとしてハイレベルな戦いのなかで身を置き、昨季からは仏アマチュアクラブで修行を積む21歳が、日本で示したかったもの。それは「攻めたからこそ勝つ」という本場のやり方だった。

「日本には『動いたら負け』という独特な文化があります。でも僕はあの日、欧州のレー

スを持ち込んだ。朝のミーティングでも浅田(顕)監督に言われました。常に先手を打つ走りをしよう、って」

U23世代の5選手による日本ナショナルチームの掲げた目標は、トップ10に2人を送り込むこと。石上は序盤から積極果敢に動いた。幾度も飛び出しを仕掛け、逃げ集団に滑り込んだ。

一方で2歳年下の松田祥位は、後方集団内でじっと好機を待った。9月上旬のブルエタ・ア・カンタブリアでも、最終盤の飛び出しを

区間勝利に結びつけたが、この日は特に自分なりに漕ぎ方を考えた。残り2周で逃げが吸収された時、狙いどおり、脚には十分な力を残していた。

「もう一度前に飛び出したい、という石上さんの強い意志を感じたんです。だから思い切って仕掛けました」

石上を引き連れ、松田は前に飛び出した。唯一反応してきた雨澤毅明には、幾度となくゆさぶりをかけた。残り1kmで松田は単独先頭に立つ。

「あの時『体がきついなぁ』なんて思いながら走っていたら、石上さんが後ろからバツと追いついてきた……。今の今まで逃げた人がですよ！『ああ、すごい。この人は勝つためにレースをしているんだ』って心から尊敬しました」

一旦遅れながらも、ラスト500m、石上は最後の攻めに転じた。前を行く後輩を捕らえ、そのまま最前線へと躍り出た。

ナショナルジャージでのワンツーフィニッシュ。その瞬間、石上の瞳から、涙があふれだした。U23日本チャンピオンとして出場した8月のツール・ド・ラヴニールは、第3ステージで鎖骨を折り、本格的な総合争いが始まる前に帰宅を余儀なくされた。完調せぬまま臨んだ9月末の世界選手権では、最後まで走りきることをさす叶わなかった。

「焦りはありました。20歳という将来に向

けて大切な時期に、レースを走る機会を失ってしまった。だから、とにかく、1つでも勝利が欲しかった。すごくほっとしました」

同世代の世界トップたちと渡り合ってきた中で、石上はいわゆる理想と現実の乖離にも苦しめられてきた。つまり大分での勝利は、自己の証明でもあった。

「積極的に攻めて、自分の力を使って、その上で勝ちたかった。これでやっと僕にも『勝てる』と証明できた。他人に対してではなく、自分に対して証明できました。アンダー23に上がってからずっと、欧州でボコボコにされてきて、なんとなく『後ずさり』しているような感覚をもってきたんです。でも、ようやく、ふっきました。自分のやってきたことは間違いじゃなかった」

アンダー23最終年の来季は5月から6月にピークをもっていく、とりわけ日本代表と

して参戦するネイションズカップ・チェコ大会で総合上位に食い込み、2020年のプロ契約につなげたい。石上にはこの先の進むべき道が明瞭に見えている。そんな頼もしい先輩と同じ時期に、同じカテゴリで走れる自分は幸運だ……と語る松田もまた、将来は本場でのプロ入りを目指す。

「それを踏まえて今年は挑戦の年でした。とにかくガンガン攻め続けました。来年はコンスタントに成績上位を出せる年にしたい。今度は脚だけでなく、頭を使う。単なる個人の体力勝負ではなく、『ロードレース』を意識した走りをしていきます」

浅田ジャパンに導かれ、着実に成長を続ける若き2人。そんな彼らにとってトッププロへの架け橋となるであろう2019年U23ネイションズカップ転戦は、2月上旬から始まる。



#### 山岳コースでのU23世界選手権 日本代表は全選手がリタイア

9月28日にオーストリアで開催されたU23世界選手権では、痛み止めを飲みながらもベストを尽くした石上が残る1周回で足切りとなったのがベストリザルト。厳しい山岳コースで、同年代のトップ選手との差を痛感する結果だったが、それを糧にして挑戦を続けている。

#### おおいたアーバンクラシック 結果

- 1位 石上優大 (日本ナショナルチーム) 3:48:49
- 2位 松田祥位 (日本ナショナルチーム)
- 3位 雨澤毅明 (宇都宮ブリッツェン) +0:11
- 4位 岡 篤志 (宇都宮ブリッツェン) +0:30
- 5位 PRADES Benjamin (チーム右京)
- 6位 横山航太 (シマノレーシングチーム)
- 7位 LEBAS Thomas (キナンサイクリングチーム)
- 8位 増田成幸 (宇都宮ブリッツェン)



石上優大と松田祥位が国際レースでワンツー



大分市郊外の市街地がコースに組み込まれたおおいたアーバンクラシック

大規模チームの屋台骨  
究極の裏方仕事を担う  
経験豊富な『ケアラー』

チームスカイ・マッサージャー  
宮島正典さん

チームスカイ・マッサージャー

「チームが勝つことができるように、同じ仕事を同じクオリティでこなすことを心がけています」。そう語るのは、近年ツール・ド・フランスをはじめとするグランツール（世界三大レース）で圧倒的な強さを見せているチームスカイに日本人として初めてスタッフに加わった宮島正典さん。『マッサージャー』または『マッサージ』『ソワニエ』として、ヨーロッパチームで活動を開始して今年で11年目。鍼灸師からパーソナルトレーナー、クラブチーム、国内チーム、海外チーム、トップチームまでキャリアの階段を上り詰めた宮島さんは、現在年間200日程度を海外のレース現場で過ごしている。

マッサージャーの本業はもちろん選手たちにマッサージを施すこと。だがしかしその業務は実に多岐に及ぶ。チームスカイで『ケアラー』と呼ばれるその役割は



ゴールで選手たちを出迎え、必要なケアをし、チーム車両へと誘導する

まさに裏方のなかの裏方で、表には一切露出しない地味な仕事ながら、チームに欠かせない極めて重要な存在を担う。グランツール期間中を例に出すと、レース現場で補給ポイントを駆け回るケアラーの他に、毎日転々とするホテルで選手やスタッフの荷物を部屋に運んで受け入れ体制を整える『ホテル係』がいる。レースで好成績を出す秘訣は、選手がいかにストレスなくレース後の時間を過ごし、次のレースまでにリカバリーすることができるか。チームスカイのケアラーの中で2番目に年上で経験豊かな宮島さんは「レース現場よりも、ホテルの体制を整える役割の方がノウハウを問われるので重要」と言う。特にチームスカイはトップチームの中でも帯同スタッフが多いことで知られるビッグチーム。選手、マッサージ、メカニック、ドクター、広報、監督、コーチ、シェフ、ドライバー、マ

ネージャーを含めると30人を超える大所帯の部屋割りを担う宮島さんは、例えばエースのクリストファー・フルームの部屋を、道路に面していなくて静かで目立たず、朝日が差さず、ボディガードやドクターの部屋に行きやすい場所に指定する。ホテル係になると昼ご飯を食べる時間もないという。そしてレース後には担当選手2人にマッサージを施して、翌日次の目的地へと向かう。マッサージだけでなく、語学力や順応性を含めて様々な能力が問われる仕事。「自分のチームだけでなく、他のチームのスタッフとも仲良くすることを心がけています。そして気づけばチームスカイで働いているのもすべては積み重ねですね」。真剣な表情でテキパキと仕事をこなす宮島さんは、スタッフが談笑モードに入るといつもその笑いの輪の真ん中にいる。

文・写真◎辻啓



山岳ステージでは山頂で待機し通過する選手たちに防寒具や補給食を渡す



東京2020オリンピック 自転車競技NEWS

東京オリンピック開幕まで600日を切り、各競技でオリンピック出場枠をかけた戦いが始まっている。ここではオリンピック・自転車競技にまつわる注目のニュースを紹介しよう！

文◎田中苑子 地図・高低図◎Tokyo 2020提供

UCIラバルティアン会長が伊豆ベロドロームを視察

現在のUCI会長ダビド・ラバルティアン氏が初来日し、11月27日にオリンピック・パラリンピックのトラック競技会場となる伊豆ベロドローム、オリンピック MTB 競技のコースを視察し、関係者たちと意見交換した。



静岡県副知事、伊豆市長も同席し、意見交換を行った

片山右京氏が自転車競技のスポーツマネージャーに就任

東京オリンピック・パラリンピックで実施する各競技の運営責任者となるスポーツマネージャーの自転車競技担当に片山右京氏が就任。片山氏は、JCF 理事、実業団自転車競技連盟の理事長などを兼任。豊富な経験を生かして、よりよい大会をめざして働きかけていく。



オリンピックに向けたテストイベント 自転車全競技のスケジュール確定

東京オリンピックの成功に向けて、競技運営および大会運営の能力を高めることを目的として行われるテストイベント。各競技、2019年から本格的に行われ、全部で56のテストイベントが予定されている。自転車競技は全4種目が2019年7月から2020年4月のあいだに実施される。最初に開催されるロードはUCI1.2クラスの国際レースとなり、本番のコースから富士山麓へ向かう約55kmが短縮された179km。終盤の勝負所となる三国・籠坂峠はそのまま設定されるため、勝負の行方に注目が集まる。

●自転車競技テストイベント一覧

種目	日付	場所	主催
ロード	2019年7月21日	スタート：武蔵野の森公園 ゴール：富士スピードウェイ	東京2020組織委員会
マウンテンバイク	2019年10月6日	伊豆MTBコース	東京2020組織委員会
BMX	2019年10月12日、13日	有明アーバンスポーツパーク	東京2020組織委員会
トラック	2020年4月11、12日	伊豆ベロドローム	東京2020組織委員会

ロードレースのオリンピックコースが決定 富士山周囲の厳しい起伏が特徴で、登坂区間に大きな比重が置かれたコース



## 島根県での全日本選手権ロード 山本元喜と與那嶺恵理が勝利

6月17日に石川県羽咋郡志賀町にてTT、22～24日に島根県益田市にてロードレースが開催された全日本選手権。TT男子エリートは窪木一茂（チームブリヂストンサイクリング）が1分以上の差で初優勝。エリート女子は與那嶺恵理（ウィグル・ハイファイブ）が5勝目・4連覇を達成した。

ロードレース男子エリートは、6選手が先行し、最終周回で山本元喜（キナンサイクリング）が仕掛け、独走で優勝。女子エリートはここでも與那嶺が圧倒的な力でリードし、通算4勝目を挙げた。



TT、ロードレースともに圧勝した與那嶺恵理

## 2018 ツアー・オブ・ジャパン マルコス・ガルシアが総合優勝

5月中旬に開催された国内最大のステージレース、ツアー・オブ・ジャパン。今年も大阪から東京まで全8ステージで熱戦が繰り広げられ、難関の富士山ステージで他を圧倒したマルコス・ガルシア（キナンサイクリング）が総合優勝。日本勢も雨澤毅明（宇都宮ブリッツェン）が京都ステージ区間優勝、鈴木讓（宇都宮ブリッツェン）が山岳賞、中根英登（NIPPO ヴィーニファンティーニ）が総合9位など活躍した。



最終日の東京ステージは日比谷からスタート



エリートカテゴリーで全日本チャンピオンのタイトルを初めて獲得した山本元喜

## 山本元喜が全日本選手権ロード初優勝 與那嶺恵理がロード&TTの二冠

文◎田中苑子 写真◎加藤智、田中苑子

### オーストリア屈指の山岳コース UCIロード世界選手権

9月下旬にオーストリア南部のインスブルックで開催された世界選手権に日本代表16選手が出場。近年稀にみる厳しい山岳コースが設定され、どのカテゴリーもサブバルレースとなったが、女子ジュニアの川口うらら（龍野高校）が27位と健闘した。



オーストリアでの世界選手権に出場した日本代表

### ジャパンカップサイクルロードレース ロブ・パワーがスプリントV

UCIの規定変更に伴い、出場チームが14から22に増えたアジア最高峰のワンデーレース。今年も8万人の観客が宇都宮森林公園に集まり熱狂した。最後は6名に絞られた先頭集団から2選手が抜け出し、23歳のパワー（ミッチェルトン・スコット）が優勝。



観客の応援を受けて古賀志林道を駆け上がる

### 2018シーズン総括



浅田 顕  
ロードヘッドコーチ

アジア選手権でのチームTT優勝など好スタートを切ったが、シーズン後半は主力選手たちのケガ等により厳しい戦いを強いられ、山岳コースで行われた世界選手権では、世界との差の現状を思い知らされる結果となった。しかしジュニア&U23の若手の成長も著しく、厳しいながらも、来シーズンからの成果に期待が持てるシーズンとなった。2019年の活躍にご期待ください。

## 200m、4kmで日本新記録更新 東京オリンピックに向けて急加速する

文◎田中苑子 写真◎若生武則、新井めぐみ (KEIRIN MAGAZINE)

### 全日本選手権女子スプリント 前田佳代乃が10連覇達成

9月8日、9日に伊豆ベロドロームで開催された全日本選手権トラック。女子スプリントでは、前田佳代乃（京都府自転車競技連盟）が太田りゆ（JPCU 埼玉／チームブリヂストンサイクリング）を下して優勝。全日本選手権10連覇の偉業を成し遂げたが、直後に引退を発表。「たくさんの縁を与えてくれた自転車競技が大好きです。また別の形で帰ってこれるように頑張ります」と話した。



全日本チャンピオンジャージに袖を通した前田佳代乃

### 4km個人パーシュート日本新 窪木一茂が圧倒的な力を発揮

リオ五輪オムニアム日本代表の窪木一茂（チームブリヂストンサイクリング）が全日本トラック個人パーシュートで、4分20秒065

をマークし、日本記録を更新し優勝。窪木は、チームパーシュート、ポイントレース、マディソン、オムニアムのトラック5冠、ロードTTを含めると全日本タイトル6冠となった。



大きく成長してトラック競技に戻ってきた窪木一茂

### 全日本選手権オムニアム 梶原悠未が完全優勝

10月6、7日に開催された4種目の複合種目オムニアムの全日本選手権では、昨年



国内敵なしの圧倒的な強さを誇る梶原悠未

UCIワールドカップで2勝した梶原悠未（筑波大学）が全種目1位の完全優勝を飾った。梶原はトラック全日本選手権5冠となり、世界選手権でのメダル獲得へ意欲を見せる。

### モスクワグランプリ2018 脇本と小林が200m日本新記録

5月30日～6月1日に開催されたモスクワグランプリのスプリント予選（200mFTT）で脇本雄大（JPCU 福井）が9秒634で日本記録を更新すると、女子でも小林優香（JPCU 福岡）が10秒814で日本新をマーク。同大会では小林と河端朋之（JPCU 岡山）がケイリンで優勝した。



2013年前田佳代乃の日本記録を更新した小林優香

### 豪華な顔ぶれが揃った ジャパントラックカップ

UCI1クラスの国際レース2018ジャパントラックカップI&IIが7月6日～8日に伊豆ベロドロームで開催され20の国・地域から36チーム、145名が参加。日本勢は脇本雄太がトラックカップI、IIケイリンで優勝。

### 2018シーズン総括



ブノワ・ベドゥ  
短距離ヘッドコーチ

2018年は初めてワールドカップで優勝、世界選手権でもメダルという想像以上の結果からスタートすることができた。選手たちは海外ではパフォーマンスが出ないという思い込みがあったが、それがなくなり、上達への道を早く進めてくれるきっかけになったと思う。今後はオリンピックに向けたすべての大会が重要になってくる。すべての大会において、上達、進化するきっかけを掴んでいきたい。



イアン・メルヴィン  
中距離ヘッドコーチ

2018年は、トレーニングプログラムからの疲労蓄積などにより、100%の体調、状態では全大会へ臨めなかった。しかし実施したプログラムは、東京オリンピックでの目的を達成するためには必要不可欠なもの。最大の目標は東京オリンピックであり、全ての選手はそれに沿って行っている。浮き沈みのあるシーズンだったが、今後は、今シーズンに構築、向上させたキャパシティを発揮できる調整をしたい。

Kドリームスは、  
JCFのオフィシャル・スポンサーです。  
自転車競技を応援しています！

橋本英也  
HASHIMOTO Eiya

競輪のネット投票サイト Rakuten Kドリームス  
【お問い合わせ】 0570-055-005  
【お申し込み先】 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
TEL: 03-5796-2873 受付時間: 12:30~17:30  
株式会社ケイ・ドリームス 東京都千代田区千代田1-1-1 20番9号

全日本選手権エリート男子で  
山本が10勝目となる勝利を手中に

7月20日～22日の3日間、富士見パノラマリゾートで行われた第31回全日本マウンテンバイク選手権大会。エリート男子ではアジアチャンピオンであり、過去9勝を上げている山本幸平（ドリームシーカー・レーシングチーム）の序盤からの独走が予想されたが、スタート直後には小野寺健（ドゥローワー・ザ・レーシング）が先頭に、2周目には前田公平（弱虫ペダルサイクリングチーム）と順位が入れ替わる展開となった。しかし、その後山本が先頭に立つと徐々に後続との差を広げていき独走状態になり単独でフィニッシュラインを越えた。レース後に「自信につながる1勝になりました。嬉しいですが、世界を考えるとまだまだ課題はあるので、それに向けて高めていきたいと思います」と話した。山本の勝利は4年連続、通算10勝目。

コンディション調整で苦しんだ  
アジア大会、沢田は6位に

8月21日にインドネシア・スパンで開催されたアジア大会。男子エリートに出場した沢田時（チームブリヂストンサイクリング）は、1列目からのスタート。スタート直後6番手と少し出遅れたものの、6人の2位グループでレースを進める。他国選手の落車もあり、展開は好転かと思われたが、沢田は単独で落車し5～6位の位置に。その後ペースは上がらず6位でレースを終えた。



下り区間を走る沢田。苦い経験をバネに成長を誓う

CJシリーズを盛り上げた  
名選手たちが引退を発表

クロスカントリースキーで3大会連続五輪



全日本選手権で10勝目。高らかに両手を挙げる山本（中）

10度目の全日本チャンピオン獲得  
年長選手の引退など、  
話題の多かった国内レース

文◎岩崎竜太 写真◎岩崎竜太、田中苑子、猪俣健一

出場という輝かしい成績を持つ恩田祐一（ミヤタ・メリダバイキングチーム）は、2015年からMTBに転向。以来、少しずつ技術を蓄え表彰台の常連となるまで成長を果たした。引退となった今シーズンは、個人シリーズチャンピオンを獲得。しかしながら、「オリンピックを本気で目指せる環境作りが難しいことが決め手となり引退を決意した」とブログで語った。38歳の恩田は「若い選



粘り強い走りに定評のあった恩田



高いスキルを持ち、なめらかな走りが持ち味の小野寺

手にはもっと本気でレースに取り組んで欲しい」とメッセージを残した。

さらに、ジュニア時代に世界選手権で25位という結果を残し、10代でスバル・ゲイリーフィッシャーグローバルチームにて活躍。国内でも数多くの勝利、シリーズチャンピオンも獲得したベテラン、小野寺健（ドゥローワー・ザ・レーシング）も今シーズン限りで引退する。

2018シーズン総括



鈴木雷太  
MTB 監督

ひとつには東京五輪に向けてというのがありますが、2024年も目標にして活動しています。世界選手権ではジュニアの選手たちが、勝負ができる前列からレースをスタートできたのは良かったです。レース前には高所順応の合宿など日本でできることはやりました。結果を残せなかったことは残念でしたが、1年半という短い期間でできることをやり、海外での経験を積めたことは成果といえます。世界で勝負するためには、ポイントがなければいい位置でスタートすることができません。2019シーズンは質の高い本場のレースを多く走れるよう、環境を整えたいと思います。

第35回全日本BMX選手権大会が7月2日に茨城県の国営ひたち海浜公園BMXトラックで開催された。男子エリートは、スタートから抜け出した池田大暉（Rockstar Rift Tangent）を松下 翼（全日空商事）がフィニッシュ手前で逆転し、初の全日本タイトルを手にした。松下は、「最終ストレートでの逆転はレース途中で考えていて、しっかり脚を温存して前に出ることができた。9月からはじまる東京五輪のためのポイント加算に向けて戦っていきたい」と語った。

女子エリートは瀬古遥加（IRC TIRE）、男子ジュニアは中井飛馬（WESTERN RIVER）、女子ジュニアは丹野夏波（白鷗女子高等学校）が優勝した。



初の全日本タイトルを獲得した松下翼

全日本BMX選手権で松下翼が  
初タイトルを獲得！

文・写真◎猪俣健一

BMX世界選手権年齢別クラスで  
澤田茉奈が優勝！

2018年のUCI BMX世界選手権大会は、6月5～9日にアゼルバイジャンのバクーで開催された。BMXレースの世界選手権は、エリートとジュニア、マスターズのチャンピオンシップカテゴリーに加えて、子どもから参加できるチャレンジカテゴリーが設けられるのが特徴だ。この女子8歳クラスで、澤田茉奈（本庄市立旭小学校）が優勝を果たした。年齢別での日本選手の世界タイトル獲得者は、2015年の榊原爽以来5人目となる。チャンピオンシップカテゴリーは、男子



女子8歳クラス優勝の澤田茉奈



チャンピオンシップ最上位の畠山紗英

ジュニアの世界ランキング1位で臨んだ中井飛馬（日本体育大学荏原高等学校）と、女子エリートの畠山紗英（日本体育大学）、女子ジュニアの丹野夏波（白鷗女子高等学校）が準決勝に進出したが、それぞれ転倒し決勝進出はならなかった。最終結果は畠山が15位、中井と丹野が16位となっている。男子エリートの吉村樹希敢（Gan Trigger）は37位だった。

チャンピオンシップでの決勝進出はならなかったが、順当に決勝を見据えた走りができている。さらに澤田茉奈など次世代の選手も出てきている。来年度につながる大会だったといえるだろう。

全日本BMXフリースタイル・パーク  
選手権大会で西 昂世が初優勝

第2回全日本BMXフリースタイル・パーク選手権大会が岡山市役所本庁舎・特設会場



男子エリート優勝の西 昂世

昨年優勝の中村輪夢（ウイングアーク1st）が決勝でバンクするトラブルに見舞われるなかで、ジャンプの着地面にしっかりと合わせバンクを回避した走りを心がけたという西昂世（JFBF）が96ポイントで優勝した。

女子エリートは、今季のワールドカップで日本人として初優勝を果たした、大池水杜（JFBF）が87ポイントで優勝した。

吉村樹希敢が  
大阪BMX国際でV

UCI C1カテゴリーの2018大阪BMX国際が11月25日大阪府宮大泉緑地サイクルどろんこ広場で開催された。男子エリートは地元大阪の選手で2016年の全日本王者、吉村樹希敢（GAN TRIGGER）が優勝した。女子エリートは瀬古遥加（IRC TIRE）、男子ジュニアは島田 遼（GAN TRIGGER AIC OSHU）、女子ジュニアは丹野夏波（神奈川県／白鷗女子高等学校）が優勝した。



相性のいいホームコースで優勝した吉村樹希敢

## 国内最高峰 UCI クラス1昇格 Rapha スーパークロス野辺山

2010年の初開催以来、日本のシクロクロス界をリードし続ける人気大会・Raphaスーパークロス野辺山が11月17、18日に開催された。2011年からUCIクラス2としての開催だったが、今年から男女ともにDAY2がクラス1に昇格。UCIポイント配分が大きくなり、海外からもより注目される大会となった。女子はサミー・ルーネルズ(スクイッド・スクアッド)が優勝し、全日本王者の今井美穂(CO2bicycle)が3位表彰台。男子は僅差のスプリントに持ち込まれ、前田公平(弱虫ペダルサイクリングチーム)が嬉しい初優勝となった。



小さな子どもから海外選手までが楽しめる野辺山シクロクロス

## 競技レベルや競技環境の向上へ、 JCXシリーズがJCF公認大会に

日本シクロクロス競技主催者協会(AJOCC)主催「JCXシリーズ」の大会が、今シーズンよりJCF公認大会として開催されている。



最終ストレートまで勝負が白熱し、僅差のスプリントを前田公平が制した

## 国内初のUCIクラス1国際大会誕生 JCXシリーズも盛り上がる

文◎田中苑子 写真◎織田 達(Kasukabe Vision FILMZ)

JCXシリーズはUCI公認大会(9戦)を中心に、全日本選手権への出場基準、世界選手権派遣選手の選考対象となる国内最高位大会で構成され、今季は全12戦。



JCX第8戦マキノラウンド  
女子は松本璃奈が優勝

### 2018-19 JCF公認大会 一覧

JCX	日時	主管	開催場所
第1戦	10/8(月/祝)	茨城シクロクロス	小貝川リバーサイドパーク(UCI C2)
第2戦	10/14(日)	中国シクロクロス	広島県立中央森林公園
第3戦	10/21(日)	シクロクロスミーティング	富士宮市 あざぎりフードパーク
第4戦	10/28(日)	東北シクロクロス	グリバーさかえ(UCI C2)
第5戦	11/10(土)	スターライト幕張	幕張海浜公園(UCI C2)
第6戦	11/17(土)	シクロクロスミーティング	野辺山 滝沢牧場(UCI C2)
第7戦	11/18(日)	シクロクロスミーティング	野辺山 滝沢牧場(UCI C1)
第8戦	11/25(日)	関西シクロクロス	マキノ高原(UCI C2)
全日本	12/9(日)	第24回全日本選手権大会	マキノ高原(UCI CN)
	12/15(土)	宇都宮シクロクロス	宇都宮 道の駅うつのみや(UCI C2)
第9戦	12/16(日)	宇都宮シクロクロス	宇都宮 道の駅うつのみや(UCI C2)
第10戦	12/23(日)	関西シクロクロス	スチールの森京都(会場変更)
第11戦	1/13(日)	東海シクロクロス	愛知牧場
	1/20(日)	東北シクロクロス	蔵王町総合運動公園(UCI C2)
第12戦	2/10(日)	前橋シクロクロス	前橋市 岩神緑地

## この道の先に

道づくりのリーディングカンパニーとして、道路舗装を究めてきたNIPPO。これからも、豊かな社会を追い求めて、時代の一步「先」に向かって歩み続けてまいります。

この道の先に  
**NIPPO**



くらしの保障、相談するなら

**JA共済**

■JA共済ホームページアドレス <http://www.ja-kyosai.or.jp>  
18481050331



全日本選手権7連覇を達成した寺井一希



男子エリート26で初の全日本タイトルを獲得した塩崎太夢

## 全日本選手権は寺井が7連覇を達成

第7回全日本トライアル選手権が4月29日に長野県佐久市の佐久ミレニアムパーク特設会場で開催された。男子エリート20の優勝は、寺井一希(チームハリケーン)で全日本選手権がはじまってから負け知らずの7連覇を達成した。男子エリート26は、塩崎太夢(山梨)が優勝した。塩崎は昨年ジュニアで世界選手権2位に入った選手で、エ

リート昇格1年目にして初優勝を果たした。

## アジア選手権で日本勢が全クラス制覇!

2018年アジア選手権大会トライアルが、全日本選手権の翌日4月30日に同会場で開催された。男子エリート20は寺井一希が優勝し、2位に土屋凌我、3位に斉藤夏樹が入り日本勢が表彰台を独占した。男子エリート26は、前日に初の全日本タイトルを手にした

文◎猪俣健一 写真◎吉田總、山田陽徳

塩崎太夢が優勝。女子エリートは横田華奈が優勝で、平野心結が2位。男子ジュニアは尾又太一が優勝し、谷口友希が2位。日本代表が全クラスを制覇する活躍だった。



男子エリート20を制した寺井一希



女子エリートは横田華奈が優勝

## 世界室内自転車選手権大会は、 サイクルサッカーで総合8位

11月23日から3日間の日程で、世界室内自転車選手権大会がベルギーのリエージュで開催された。サイクルサッカーは初日を4戦4勝で終わり、24日のリヒテンシュタイン戦が事実上の1位決定戦となった。その結果、リヒテンシュタインに敗れ、Bグループ2位と昨年の3位から1つ順位を上げたものの、入れ替え戦に進むことができなかった。総合では8位の結果だった。

サイクルフィギュアは、男子の芝山耕輔と女子の近藤菜月の両選手とも点数的に不満足な結果で終わってしまった。ただ、近藤は練習中に何度も失敗していた大技を最後に決めて今後の成長に期待をもたせる内容だった。最終結果は芝山が21位、近藤が16位だった。



サイクルサッカーで香港と対戦する日本チーム



サイクルフィギュア16位の近藤菜月



世界室内自転車選手権大会日本代表チーム

文◎井上徹 写真◎井上徹、濱田美穂子

### パラサイクリング世界選手権ロード 女子C2 野口佳子が世界王者に

8月にイタリア・マニアーゴにて開催された世界選手権ロードで、女子C2クラスに出場した野口佳子（ウェルパーク/チームブリヂストンサイクリング）が優勝し、昨年のTTでの優勝に引き続き、世界選手権2勝目を挙げ、世界チャンピオンの証となるアルカンシェルに袖を通した。野口はTTで2位、同クラスに出場した藤井美穂（楽天ソシオビジネス）はTT、ロードともに6位。男子C2クラスで川本翔太（チームブリヂストンサイクリング）がTT10位、ロード4位、男子Bクラスの木村和平+倉林巧和ペア（楽天ソシオビジネス）はTT19位、ロード15位という結果だった。



ベルギーでのワールドカップで優勝した野口佳子。今季はワールドカップ全勝という成績を残した

### 2018UCI パラサイクリング賞 世界王者・野口佳子が受賞

今季ワールドカップ全勝、世界選手権ロード優勝の野口佳子が、シーズンを通してもっとも活躍した選手として、UCIパラサイクリング賞を受賞。中国にて開催されたUCI主催の年間表彰式にてトロフィーを受け取った。「いろいろな方々のおかげでこうした賞をいただけて感謝しかありません。応援してくれる人の喜ぶ顔が見たくて、それが頑張る原動力になっています」とコメント。



世界のトップスターが集まる表彰式に出席した野口



パラサイクリング世界選手権ロードレースで優勝した野口佳子が表彰台で笑顔みせる

## ロード世界チャンピオン野口佳子 UCIパラサイクリング賞を受賞

文◎ 田中苑子 写真◎ JPCF、小坂橋彩子 (JPCF)、依田裕章 (エックスワン)

### アジアパラ競技大会 日本勢は金メダルを3つ獲得

10月にインドネシア・ジャカルタで開催されたアジアパラ競技大会。ロードTTは男子のみの開催となったが、厳しい暑さのなか24kmの男子Bクラスで、木村和平+倉林巧和ペアが2位のマレーシアを1分14秒ほど引き離して優勝した。12kmの男子C1-2クラスには川本翔太 (C2) が出走して



ロードTT、トラック個人パーシュートを制した木村+倉林ペア



全選手がメダルを獲得したパラサイクリング日本代表

銀メダル。そしてトラック競技では再び木村+倉林ペアが4km個人パーシュートで優勝。ロードレースの世界チャンピオンの野口佳子 (C3) も女子C2-5クラス3km個人パーシュートで金メダル、同種目では藤井美穂 (C2) も銅メダルを獲得した。川本翔太もトラック競技で活躍し、3km個人パーシュート、1kmTTで2つの銅メダル獲得など、日本チームは出場全選手がメダリストとなり、合計金メダル3、銀メダル2、銅メダル4という成績だった。

### 2018シーズン総括



権丈泰巳  
監督

野口選手の活躍が目立ったが、それだけでなく、藤井選手、川本選手、木村選手+倉林選手ペアと若い選手たちがアジアパラ大会でメダルを取るなど活躍し、チーム全体として強化が進んでいることを実感したシーズンだった。東京パラリンピックでは全選手の金メダル獲得が目標になる。来季は国際大会に出場し、より多くのポイントを獲得して、まずはパラリンピックの出場枠を確保しながら、引き続き各選手の強化を図っていききたい。

# 走れ、走れ、走れ。



応援にもっと熱が入る。臨場感ももっと増す。  
そして、自分のサイクリングライフもちょっと変わる。  
このTシャツを身にまえば、  
あなたもナショナルチームのメンバーだ。

## ナショナルチーム 応援Tシャツ



トラック競技  
プロコーチも  
お気に入り!

## 応援Tシャツを着てナショナルチームを応援しよう!

ナショナルチームが日々着用する高品質スポーツウエアを提供するデサント社製オリジナル応援Tシャツが購入できます。  
ナショナルチームの公式ジャージをイメージしたデザインで、吸湿速乾に優れる素材を使用。2019年1月オープン of JCF公式通販サイトにて販売する予定です。詳細は、JCF公式サイト、公式ツイッター (@JCF\_cycling) 等でご案内します。

5,000円 (税込)  
●サイズ:S~XO

公益財団法人 日本自転車競技連盟広報誌 シクリズムエコー No.230

2019年1月発行

発行/公益財団法人 日本自転車競技連盟  
発行人/橋本聖子  
編集人/小野口裕朗  
編集事務局/公益財団法人 日本自転車競技連盟 事務局  
〒141-0021 東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル5F  
TEL.03-6277-2690 FAX.03-6277-2691 http://www.jcf.or.jp/  
※定期購読をご希望の方は編集事務局までお問い合わせください。

編集スタッフ 猪俣健一  
岩崎竜太  
田中苑子  
アドバイザー 吉本 司  
AD・D 高橋正二  
表紙撮影 岩崎竜太

シクリズムエコーは、日本自転車競技連盟の広報誌として、これまでに229号発行してきました。多くの競技結果やレース情報を愛好家の皆様にお届けしてきました。そして、2020東京五輪を目前に控え、現在のスタイルやニーズに合わせる広報誌として、リニューアルすることになりました。自転車ナショナルチームを応援すること、魅力ある自転車競技を普及することに加えて幅広く「サイクリススポーツ」について取り上げたいと思っています。ご期待ください。

この資料および〇〇の表示がある事業は、JKAから競輪収益の一部である公益事業資金の補助を受けたものです。  
©(公財)日本自転車競技連盟2017本紙掲載の写真、イラスト、ロゴマーク、ロゴタイプおよび記事の無断転載を禁じます。

本誌への寄稿またはご意見、ご感想等を編集事務局までお寄せください。



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。  
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

WHY TOKO METAL?

創業 115年の歴史  
原材料再生のエキスパート  
24時間対応の柔軟な受入体制

TOKO METAL  
Ecosystem Creating Company  
<https://www.tokometal.co.jp>

お客様に、感動と満足を

日本旅行  
NIPPON TRAVEL AGENCY

赤い風船  
MACH マッハ  
Best Excellent  
Best ベスト

あなたと街の  
未来を変えていく。  
Change Your future

日商エステム



**SUBARU**  
Confidence in Motion

# GT TOURER LEVORG

1.6GT EyeSight V-SPORT  
[LEVORG 1.6GT EyeSight 特別仕様車]



アイサイト・ツーリングアシスト搭載  アイサイト 運転支援システム

鮮烈な走りと個性を、味わい尽くす。

見るたびに走りへの想いを高めてくれる精悍なスタイル。その期待に応える卓越したハンドリングと乗り味。

そしてツーリングの安心を支えるアイサイトセーフティプラス\*。

レヴォーグで体感するドライビングの喜びとスポーツの興奮をさらに深める、

スペシャルモデル LEVORG 1.6GT EyeSight V-SPORT。

その特別なスタイルが、特別な走りが、あなたの世界を広げていく。



1.6GT EyeSight V-SPORT  
[LEVORG 1.6GT EyeSight 特別仕様車]

1.6L DOHC 直噴ターボ“DIT” リニアトロニック AWD(常時全輪駆動)  
メーカー希望小売価格 3,078,000円(消費税8%込)

\*スマートリヤビューミラーは装着されません。PHOTO:WRブルー・パール LEDアクセサリライナーはディーラー装着オプション 写真はすべてイメージです。●写真は印刷インクの性質上、実際の色とは異なって見えることがあります。●この仕様はお断りなく変更する場合があります。●詳細は店頭またはWEBでご確認ください。●記載価格はメーカー希望小売価格に消費税8%が含まれた総額表示です。●メーカー希望小売価格は参考価格です。販売価格は各販売店が独自に決めていますので、それぞれにお問い合わせください。●価格はタイヤパンク修理キットとタイヤ交換用工具を含む価格です。●価格にはオプションは含まれておりません。●リサイクル料金、税金(消費税を除く)、保険料、登録等に伴う諸費用等は別途必要となります。●登録等に伴う手続き代行費用については別途消費税が必要となります。



**▲ツーリングアシストは、高速道路や自動車専用道路でのドライブをより安全・快適に行っていただくための運転支援システムです。●ドライバーがステアリング操作している状態を判定し、システムが無操作状態と判断した場合には機能を停止します。●アイサイトのご使用について重要な注意事項が記載されておりますので、ご使用前には必ず取扱説明書をお読みください。●アイサイトの詳細は、販売店にお問い合わせください。**

[SUBARU お客様センター] SUBARU コール 0120-052215 受付時間 9:00~17:00(平日)、土日祝は9:00~12:00、13:00~17:00 ※平日の12:00~13:00及び土日祝は各インフォメーションサービスのみとなります。

[www.subaru.jp/levorg/v-sport/](http://www.subaru.jp/levorg/v-sport/)

安心と愉しさを。SUBARU